

022-3

アウトカム評価導入後の除外患者選定に関する考察

作業療法士：弘中 直樹¹、理学療法士：石田 英稔¹、理学療法士：徳原 和明¹

¹:医療法人社団生和会 周南リハビリテーション病院

【目的】当院回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）では年齢、FIM入院時点数、リハスタッフによるFIM予後予測点数を基にアウトカム除外患者を選定している。本研究では、アウトカム評価導入後の回リハ病棟入院患者について後方視的に分析することで、除外患者の傾向について調べることを目的とした。【方法】2016年4月以降に回リハ病棟に入棟し、2017年12月までに退棟した患者のうち、除外項目に該当するものを研究対象とした。アウトカム評価の対象となった患者をA群（n=103）、除外をした患者をB群（n=57）とし1. 当院で除外選定に使用している項目、2. 退院時の実績指数について群間比較を行った。また、3. FIMの予後予測と利得の点数について比較を行った。【結果】1. 年齢以外の項目に有意差を認めなかった。2. 実績指数はA群42.1、B群12.9であった。実績指数とFIM利得点数には有意差を認めたが在棟日数には有意差を認めなかった。3. FIMの予後予測と利得の点数には平均で9.8±11.6の差を認めた。【考察】除外患者の選定には入院時FIMと予後予測が影響していることが示唆された。当院は重症患者が多くA群、B群ともに在棟日数は長期化していたが、FIM利得を高めることで実績指数をクリアすることが出来ていた。今年度の診療報酬改定では更に高い実績指数が設定されている。予後予測の精度を高める事で、除外患者を適切に選定できるようにする必要があると考えた。